

福岡県の業種別D・I値の変化

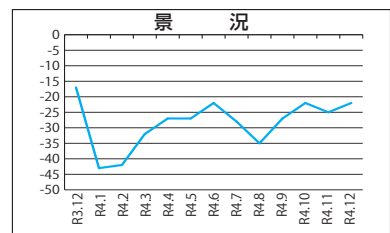
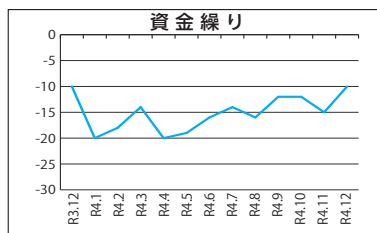
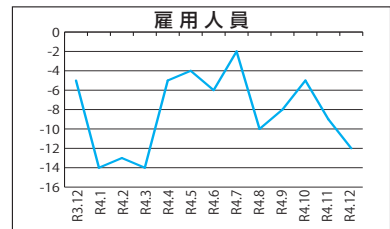
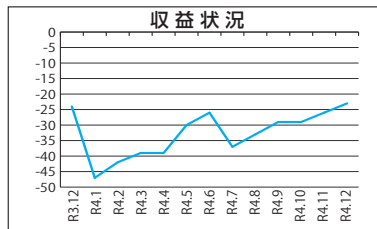
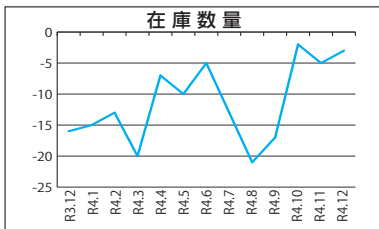
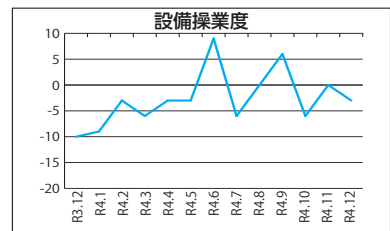
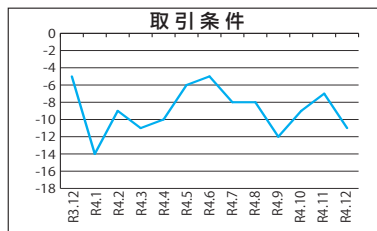
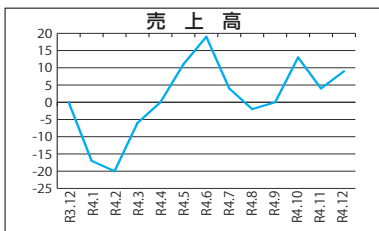
(福岡県中小企業団体中央会調査)

業種	項目	前年同月比								
		売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	景況
製造業	食料品	→	→	↗	→	↓	→	→	→	↓
	繊維・同製品	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	木材・木製品	↓	→	↗	→	↓	→	→	↓	↓
	印刷	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	窯業・土石製品	→	→	↗	→	→	→	→	→	→
	鉄鋼・金属	↗	→	↗	→	↓	→	↗	→	↓
	一般機器	→	→	→	→	→	→	→	→	↓
	電気機器	→	→	→	→	→	→	→	→	→
非製造業	卸売業	↗	→	↗	→	↓	→	—	→	→
	小売業	↓	↓	→	→	→	→	—	→	↓
	商店街	→	↓	→	→	→	→	—	→	→
	サービス業	→	—	→	→	→	→	—	→	→
	建設業	↗	—	→	→	→	→	—	→	→
	運輸業	↓	—	→	→	↓	→	—	→	↓
	その他	↗	—	↗	↗	↗	→	—	→	→
D・I		9	-3	31	-11	-23	-10	-3	-12	-22

↑ 増加・上昇・好転 ↗ 増加・上昇・好転の傾向 → 不変 ↓ 減少・下落・悪化の傾向 ↓ 減少・下落・悪化

D・Iとは…Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業界感や設備、雇用人員の過不足などの判断を指数化したものである。前年同月に比べ「好転」・「増加」したとする割合から「悪化」・「減少」したとする割合を差し引いた値。

●前月比D・Iの動きをみると、売上高、販売価格の上昇により、収益状況も着実に改善が図られているが、依然として雇用環境は厳しい状況にある。



全国中小企業団体中央会では、ホームページ上で月次景況調査(情報連絡員全国集計)を公開しておりますので、ぜひご覧下さい。

全国中小企業団体中央会ホームページ <https://www.chuokai.or.jp/>

経済動向

九州地域の経済動向

出典：景気ウォッチャー調査（内閣府）
（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪）

分野	判断	判断の理由
現状	家計動向 関連	○ ・パートナー、家族、友人など複数名での来店が目立っている。旅行や帰省用の土産にギフトを探す客が多い（百貨店）。
		□ ・今月は、新型コロナウイルス感染症の第8波の影響で、少人数の客は入っているが、団体客は余り利用がない（高級レストラン）。
		▲ ・新型コロナウイルス感染症第8波の感染拡大により、サービスキャンセルが増加傾向にあり、利用者数が減少している（その他サービスの動向を把握できる者【介護サービス】）。
	企業動向 関連	□ ・コストが高くなっており、価格転嫁ができない状況に苦しんでいる（農林水産業）。
		○ ・家電販売はほぼ横ばいで推移しており、百貨店やスーパーマーケットでは売上が持ち直している。また、旅行商品の販売や飲食店の売上も増加しており、雇用環境も改善傾向がみられる（金融業）。
		▲ ・3か月前との比較では、円安の影響による物価上昇などもあり、景気は後退している。特に製造業では、燃料や原料の価格高騰もあり厳しさを感ずる（その他サービス業【物品リース】）。
雇用 関連	○ ・特にパートの求人数の増加が継続している。有効求人倍率は3か月連続で前年を超え、新規求人倍率は11か月ぶりに2倍を上回っている（職業安定所）。	
	□ ・物価高騰により、就職状況は変わらずやや悪い（学校【専門学校】）。	
	▲ ・鉄道やバスのダイヤ改正で本数が削減されている。特に夜間、最終時間の繰上げで、忘年会や新年会が多い年末でも22時台に利用者が少ない。駅前のバスも繰上げや削減となっており、しばらくはこうした状況が続くと予想される（新聞社【求人広告】）。	
その他の特徴コメント	○：寒さが厳しくなるにつれ、1品単価は低めであるが、まとめ買いの客が目立つようになっている（商店街）。 ○：全国旅行支援の後押しもあり、稼働は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っている（都市型ホテル）。	
分野	判断	判断の理由
先行き	家計動向 関連	□ ・物価の上昇により買い控えの影響が現れている。購入金額の単価が減少し、ついでに購入されていた菓子も需要がなくなっている。元の売上に戻るには相当な時間を要する（一般小売店【茶】）。
		○ ・メーカーから、1～3月にかけて前年比で150%程度の新車配給ができるとの発表があり、相当分の売上や利益の確保に期待している（乗用車販売店）。
	企業動向 関連	□ ・海外での生産が減り国内での生産が戻りつつあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で生産数はやはり落ちる見込みである。全体的に維持することが精一杯で、悪化しないようにしている（繊維工業）。
		○ ・このまま新型コロナウイルス感染症の規制緩和が進んでいけば、景気は上向いていく（広告代理店）。
	雇用 関連	□ ・業界的に求人数は動きがあるが、求職者の動きは相変わらず慎重で、募集を掛けても求人に応答がない。就業開始までに時間が掛かるため景気は変わらない（人材派遣会社）。
その他の特徴コメント	○：大規模な再開発工事による関係者の利用や外国人観光客の増加により、景気は良くなると予想される（コンビニ）。 □：全国旅行支援の終了後が不透明であり不安である。しかし、団体客が少しずつ動き出しており期待したい（観光型ホテル）。	

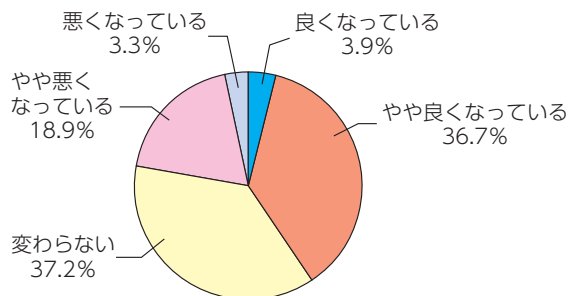
景気ウォッチャー調査

（令和4年12月調査）（内閣府調査）

九州における12月の現状判断DIは前月比1.1ポイントマイナスの54.7、先行き判断DIは前月比1.7ポイントマイナスの51.1となり、新型コロナウイルス第8波や物価上昇による原材料の高止まりや買い控えなど消費者の購買動向の変化が影響しているとみられる。

なお、全国の調査結果の評価としては「景気は、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がある一方、価格上昇の影響等に対する懸念がみられる。」とまとめられる。

景気現状判断



景気先行き判断

